



■ 帰国生の大学進学実績

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	合格	進学	合格	進学	合格	進学	合格	進学
東京大学	0	0	1	1	0	0	0	0
慶應義塾大学	1	1	1	1	0	0	6	3
早稲田大学	3	1	2	1	4	2	2	2
上智大学	8	5	4	3	10	5	3	2
東京理科大学	0	0	1	1	3	1	0	0
国際基督教大学	1	1	0	0	2	0	1	0
明治大学	0	0	3	1	0	0	2	0
青山学院大学	2	0	3	1	2	0	2	1
立教大学	5	3	2	1	3	1	5	3
中央大学	2	0	2	1	3	1	2	0
法政大学	3	1	0	0	1	0	2	0
成蹊大学	4	4	4	4	7	6	2	1
その他	University College London / New York University / 北海道大学(水産) / 千葉大学(理) / 日本医科大学(医) / 同志社大学(文化情報)		Newcastle University / 京都大学 / 順天堂大学(医) / 杏林大学(医) / 日本医科大学(医) / 星薬科大学 / 麻布大学(獣) / 桜美林大学(航空) / 芝浦工業大学(建築)		東京科学大学 / 都立大学 / 千葉大学 / 順天堂大学(医) / 杏林大学(医) / 日本大学(医) / 学習院大学 / 明治学院大学 / 東京農業大学 / 関西学院大学 / 武蔵大学 / 國學院大学		Arizona State University / 東北大学(総合型・工) / 東京外国語大学(国際社会) / 聖マリアンナ医科大学(医) / 立命館アジア太平洋大学 / 東京農業大学 / 東京女子大学	

※成蹊中学・高等学校へ帰国生として入学・編入した生徒と、中高在学中に保護者の海外転勤に帯同し海外の学校を経験した生徒を含みます。
 ※成蹊小学校の国際学級出身者は含みません。
 ※海外の大学に進学する場合、いったん日本の大学に入学することがあり、ここではその両方を表示しています。



SEIKEI 成蹊中学・高等学校

<https://www.seikei.ac.jp/jsh/>

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-10-13

TEL:0422-37-3818 FAX:0422-37-3863 E-mail:chuko@jim.seikei.ac.jp



Webサイトから、
 学校案内の
 デジタルパンフレットが
 ご覧いただけます。



2026.05.1.000



SEIKEI

For Returnees

帰国生のみなさんへ

SEIKEI JUNIOR HIGH SCHOOL / SEIKEI SENIOR HIGH SCHOOL



帰国生と 保護者の皆様へ

校長 仙田 直人 SENDA Naoto

成蹊中学・高等学校は、小学校から大学までが揃う成蹊学園の一角にあり、その自然に恵まれた緑豊かな環境は、海外の学校を彷彿させるキャンパスとなっています。帰国生の受け入れについては、約90年近く前から実施しており、1964年からは全国に先駆けて、帰国生対象の国際学級も設置しました。

また、国際理解教育の面では、多くの生徒が世界各地の学校と提携したプログラムで留学に向かうとともに、交換プログラムなどによる留学生も常時迎えています。このように成蹊はグローバル教育が日常的に行われており、帰国生にとって、過ごしやすい学習環境で個性や能力を伸ばすことができる学校です。是非とも本校の教育を理解し、入学していただけることを心から期待しております。



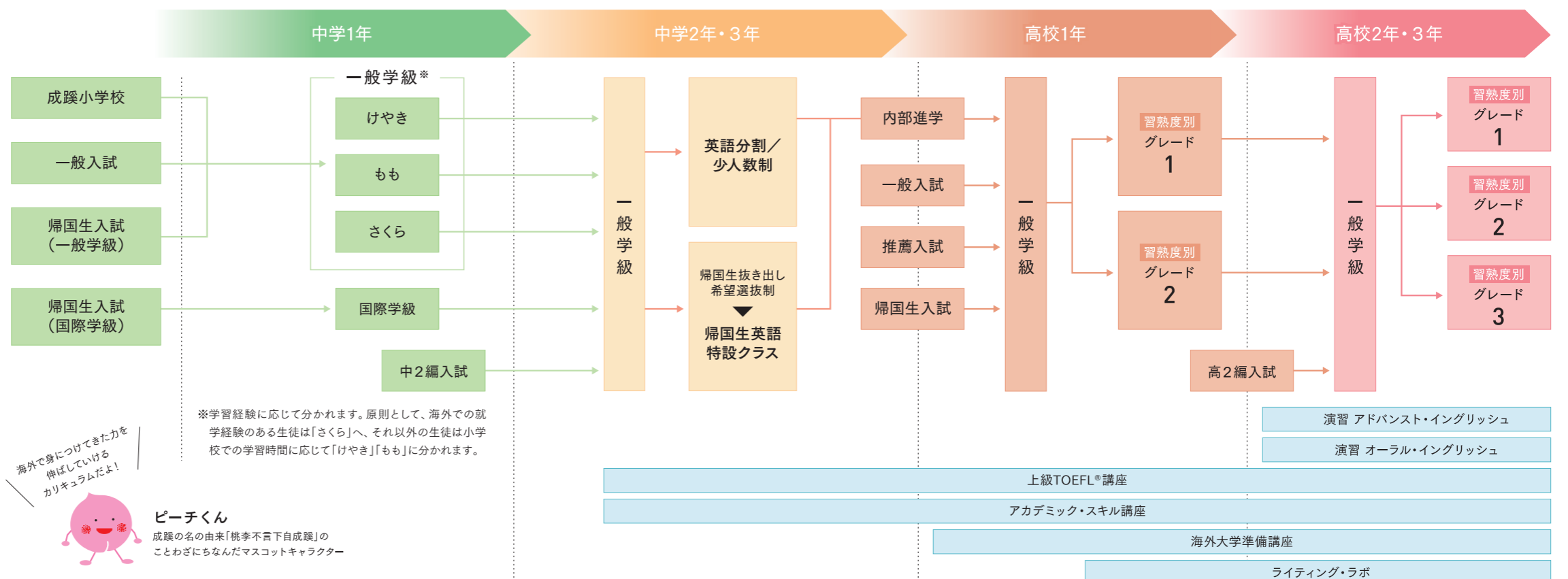
帰国生受け入れの歴史

成蹊中学校では1964年に国際特別学級(1995年に国際学級と改称)を設置し、以来、帰国生を受け入れてきました。設置後しばらくの間は、帰国生指導専門の教員による指導が行われてきましたが、その後、一般学級を指導していた多くの教員も国際学級を担当することで、学校全体が帰国生指導の経験を積み重ねてきました。国際学級は、当初現地校出身者と日本人学校出身者を区別せずに受け入れていましたが、日本と異なる教育環境で育った帰国生の受け入れに特化するために、現地校またはインターナショナル校出身者のみのクラスに再編して現在に至ります。

現在では国際学級は1年間で修了し、中学2年生からは一般クラスへ移って学校生活を続けます(英語のみ別クラス)。また、中学2年生編入試、高校帰国生入試、高校2年生編入試でも帰国生を受け入れています。



中高6カ年の英語教育の流れ



海外で身につけてきた力を
伸ばしていける
カリキュラムだよ!



ピーチくん
成蹊の名の由来「桃李不言下自成蹊」の
ことわざにちなんだマスコットキャラクター

※学習経験に応じて分れます。原則として、海外での就学経験のある生徒は「さくら」へ、それ以外の生徒は小学校での学習時間に依りて「けやき」「もも」に分れます。

国際学級

(中学1年のみ)

アカデミック・アドバイザー

国際学級の英語授業

世界中のさまざまな国や地域で生活していた生徒たちで構成される国際学級は、日本とは違った文化や現地での経験から、幅広い視野や積極性、伸びやかな発想を兼ね備えた学級です。各々の貴重な経験を生かし、互いに教え合い、学び合います。

英語の授業は週5時間です。そのうち3時間がネイティブ教員の授業、2時間が日本人教員の授業です。授業はAll Englishで行われます。ストーリーを通して、語彙や表現、リーディングスキルなどを養います。読んだものをもとにディスカッションを行い、互いの意見や価値観を共有します。また、発表活動を通して、プレゼンテーション力を高めるなど、英語力を維持し、さらに伸ばさせるために、さまざまな活動を行います。また、ジャーナル(英語日誌)の課題を通してライティング力、文法力を身につけます。



国際学級(H組)の生徒たち(2025年度)

海外で学ぶための学習支援

本校には、各種留学プログラム参加者や海外大学志望者を支援する専任教員でアカデミック・アドバイザーのMatthew Wright先生がおり、海外大学で学ぶための準備講座を開講する他、個人指導としては出願校の選択、学習計画、エッセイ等出願書類作成などのサポートを行っています。

- 上級TOEFL®講座**
海外大学等に応募する際に必要とされるTOEFL®でハイスコアを狙うための講座
- アカデミック・スキル講座**
留学プログラムの前に、英語で授業を受けるスキルをつけるための講座
- 海外大学準備講座**
米国大学の学科試験であるSATの準備講座
- ライティング・ラボ**
1対1対話を通じて、より良い文章にする方法を学ぶための講座



上級TOEFL® 講座

国際学級であるH組は、とてもアットホームでありエキサイティングなクラスです。

同じ年齢の仲間が集まっていますが、一般学級と少し違って、みんな海外で育ち、それぞれのバックグラウンドが違うからこそ、良い意味でにぎやかなクラスです。今年のクラスのモットーは“Be Open Minded”。少人数でもほかのクラスに負けず元気で充実した学校生活を送っています。先生方のユーモアとウィットに富んだホームルームや授業もH組を盛り上げてくれます。成蹊中学校の探究学習「桃李」では、ほかのクラスの仲間とも一緒になって、社会と関わる他にはない経験もできる授業です。委員会活動や部活動、学校行事も生徒主体に進められ、私たちの意見や考えを吸い上げてくれる雰囲気があり、まさに学校全体がオープンマインドな環境です。

私は海外で生まれ、11歳まで海外で生活してきました。日本の学校経験がほとんどない中で学校説明会に参加し、そこで“Wonderful Connection”を感じました。そしてその気持ちは本当だったと日々の充実した学校生活で感じています。

Message from Student and Teacher



RさんとA.F Brough先生

国際学級 Rさんから

“Univudual.” That is our class motto. At least I hope it will be. We haven’t made the final choice but it is the one I like the best. The students explained it to me as a combination of “unique” and “individual.” And that pretty much describes the IH class this year, and come to think of it, it pretty much describes all the six IH classes that I have looked after. Fifteen or so boys and girls, who are Japanese, but are not Japanese. All getting used to life in a Japanese school with their classmates, while sharing their rich life experiences with each other and their non-returnee friends from other classes. In this short space given to me, I was going to describe IH as a family, and more than just a class, but perhaps I should borrow from my very smart class and just say that we are one very Univudual Family !!

Message from Teacher



Matthew Wright先生

My role as the Academic Advisor is to provide academic and personal support to any and all students involved in international education, whether that takes the form of strengthening their English abilities, recommending study abroad programs, assisting in applying to foreign universities, or preparing them for Eiken/international programs at Japanese universities. With a background in studying the U.S. higher education system, I apply that knowledge and experience to offer TOEFL, SAT, and pre-study abroad classes after school to any interested students. These opportunities are open to students in both the junior and senior high schools, and allow them to either acquire the skills and preparation for their higher education path needs or to further improve their English. Outside of classes, students can sign up for a one-on-one appointment to talk about any school-, English-, or international-related topic they have.

アカデミック・アドバイザー Matthew Wright 先生より



海外大学準備講座



多彩な海外留学プログラム

- Denmark: ルンステッド高校
- Sweden: カルマレ国際高校
- United Kingdom: ケンブリッジ大学
- Canada: カナダターム留学 (バンクーバー/アボッツフォード)
- United States of America: セントポールズ校
- United States of America: フィリップス・エクセター・アカデミー校
- United States of America: イーグルブルック校
- United States of America: チョート・ローズマリー・ホール校
- Australia: セント・ラファエルズ・カソリック・スクール (カウラ市)
- New Zealand: ニュージーランド短期留学 (オークランド)
- United States of America: カリフォルニア大学デービス校
- ★ 成蹊中学・高等学校

中学2年の4月に編入した私は、成蹊の豊富な留学プログラムに強く惹かれ、高校1年の時にアメリカの名門ボーディングスクールであるチョート・ローズマリー・ホール校のサマープログラムに参加しました。5週間のAcademic Enrichment Courseでは、暗記中心ではなく、自分の考えを英語で書き、クラスメイトと議論する授業が中心でした。毎週のエッセイ課題は簡単ではありませんでしたが、自分の理解度がはっきりと分かり、論理的に考え、表現する力が着実に身につけていくのを実感しました。英語を第一言語とする生徒が多い環境に最初は戸惑いましたが、思い切って発言することで自信ができました。寮生活では、勉強と遊びの両立を自分で考えて行動する力が求められました。34か国以上から集まった仲間との出会いは私の視野を大きく広げ、将来は英語を使って海外と関わる仕事に就きたい、という思いがより一層強くなりました。チョート校での5週間は、言葉では言い表せないほど、濃くかけがえのない時間となりました。

サマープログラムに参加したHさんから

Message from Student



Hさん



たくさんの学校と交流しているね!

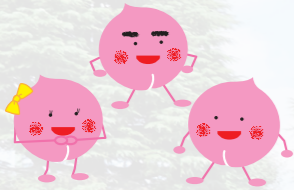


※最新のプログラムについては、本校ウェブサイトをご確認ください。

卒業生が語る

成蹊の魅力

久しぶりの国際学級の教室で、
 当時を振り返りながら、
 成蹊の学びについて語ってくれました。



成蹊中学校の国際学級を選んだ理由は？

Tさん： 祖母が成蹊の家庭科主催の料理イベントに参加していて、この学校を気に入っていたのがきっかけでした。15人の国際学級は1年間ですが、まず日本の生活に馴染んでから、一般学級に移行できます。中2で30人以上のクラスに入ったときにとまどったので、最初から一般学級でなくてよかったと思いました。

Yさん： 私の場合は、両親が情報を集めてくれたいくつかの学校を訪問して、その中で豊かな自然と活気のある成蹊の雰囲気に惹かれました。現地校とインター校からの生徒を受け入れているので、自分達と同じ経験してきた人と一緒に共感し合いながら過ごせると思いました。

Nさん： パリでは英語の授業についていくだけで必死で、塾に行くとか、受験勉強に手をつける余裕がありませんでした。だから、成蹊に合格できるとは思いませんでした。

私は、学校訪問の際に出会った生徒や先生方と波長が合って、「ここだ!」と思いました。特に記憶に残っているのは、国語の入試問題で、塾でやるような問題ではなくて、自分を引き出してくれるような作文の問題があって、自分自身を見てくれていると感じられました。



左: Yさん

上智大学 総合グローバル学部 3年
 Nさんの双子の妹。

中: Nさん

慶応義塾大学 法学部 3年
 Yさんの双子の姉。

姉妹でロンドンの幼稚園に3年、その後小2まで日本に帰国、小2の途中から小6までパリのインター校に在学。

右: Tさん

早稲田大学 国際教養学部 4年

ロンドンに小3から中学入学までの3年間現地校に在学。

※進学先の学年は取材時のものです。

国際学級だから得られたものは？

T： 同じような価値観を持った人と、少人数で過ごしたことで、一生の友人ができたことです。

Y： 私も、今でもつながりが消えていません。高校へ行っても、大学生になっても、「あ、誕生日だな」と、ふとしたときに連絡しています。国際学級はたった1年ですが、共通の価値観があって、それでいて多様な人間関係というか…。自分自身を客観視できる場でした。

海外で全く違う環境に放り込まれてなかなか自分を出せなかった私が、日本に帰って少しずつ心を開いていくことができる場でもあったと思います

N： 公立小学校にいたときは帰国生という一色で見られていましたが、国際学級では、英語圏出身や、英語圏以外で育った人、英語に対するコンプレックスのある人、いろいろな帰国生が集まっています。また、クラスの人々と日本の学校のルールにぶつかりながら、自分のできること、できないことを知ることができたのがよかったです。

帰国生に期待されるものは？

T： 「帰国生」とひとくりにされるのはすごくいやです。

N・Y： そう、そう。

T： よく、「帰国生」と言うと、まず自信があって、英語がすごくできて、さらに他に何でもできると思われます。

N： 帰国生だから、英語はベラベラで、なおかつフランスにいたからフランス語もよく話せると期待されます。私はそこまでではないので、よく話せる帰国生と比較されて、「なんでできないの?」と言われてしまうこともありました。

Y： 中2になって一般クラスに入ったとき、友だちを作るのには苦労しました。そんなとき、帰国生英語特設クラスで、国際学級ではない英語のできる人達と交流したとき、自分のわだかまりが解けたような感じがしました。

N： 帰国生英語特設クラスは、今の私にも影響しています。英語教材を通して社会や政治を考え、劇を演じ、プレゼンし、英語を使ってアウトプットすることが多かったため、今の私の力になっています。

T： 英語のディベートのように、英語を使って、グループでも、個人でも考えるという経験は、すごく身になっていて忘れられないです。

成蹊は海外経験を生かしてくれた？

Y： パリの小学校では、児童の発信で、例えば、車を作ってみようとか、教室に火星を作ってみようとか、自由にいろいろな教材・課題で授業をしていました。成蹊に入塾してから、自分達がやりたいことをサポートして下さる先生がたくさんいらして、環境も整っていて、パリの学校で身につけたスタイルを失わないでいられたことにすごく感謝しています。それと、思っている、なかなか行動に移せないものですが、何気なくぼろっと言ったことを、「いいね」と背中を押してくれる仲間の存在も大きかったです。

T： 私が思うに、成蹊は帰国生英語特設クラスの授業とか、英語を伸ばす環境があって、海外で身につけたものを大切にできる学校です。その一方で、とても日本的な学校だとも思っています。国際学級の中では、帰国生としてのつながりもあるのですが、学校の中では日本人として扱ってもらえました。海外の経験をもつ帰国生でありながら、日本のこともよく理解できるように育んでくださったと思います。

N： 私も大学生になって、いろいろなタイプの帰国生と出会ったのですが、その中で私はけっこう日本のことがわかっていて、日本の社会のルールに適應できているのだと気づきました。それは、成蹊では帰国生だから特別扱はず、日本の常識やスタイルを、海外で得たものを失わずに身につけられたからだと思います。

T： 30人の一般学級でも、時間をかければ日本のスタイルを身につけられると思いますが、その代わり、海外で身につけたものは消えてしまいます。だから、国際学級の1年ってとても大事だったと思います。2つの文化を理解した人になれると思います。

今の自分自身に生かされているものは？

T： 選択肢がすごく増えた気がします。大学は国際系の学部において、中高と続けていた柔道を、大学の体育会でも続けていて、国際的な視点と日本的な視点その両方の世界に所属できる柔軟性が身についたと思います。

N： 私は、法学部に所属していますが、多文化コミュニケーションや、社会学に近い分野に興味があって、映画制作をしています。妹にプロデューサーになってもらい、高校時代からの映画作りの仲間と映画を撮り終えたところです。海外にいたころ、言葉の壁もあって伝えることや、表現することが苦手で、代わりに書くこと、物語を作ることに関心をもつようになりました。同じ帰国生でもストレートにものと言える人が多くて、あなたの話はまどろっこしいと指摘されました。そして自分にぴったりの、伝える、表現する方法は何かと探したとき、それが映画でした。

Y： 上智大学の総合グローバル学部で、国際関係、NGO、アジア研究などをしています。あと、未就学児の国際ボランティアをしています。姉と映画を制作する他に、これも高校でチャレンジしたことなのですが、一人で弾き語りをしています。おかげで、自分がどう見られているか、どう見えるかということ考えられるようになりました。

成蹊から未来につなぐ

T： 海外で得た価値観と、日本での生活で得た価値観、2つを持ったことで、いろいろ選択肢が増えたと思います。そのたびに、自分でどれにするか決断することや考える機会も増えて、中学に入学したときと高校を卒業したときではずいぶん違う人間に成長できたと思います。いろいろな人たちとの出会いがあって、見えてくるものもいろいろあり、それが大学を選ぶきっかけとなり、将来やりたいことにつながりました。中高一貫で受験がないので、6年かけているというトライして成功体験を重ねていけました。海外にいたときに比べ、身長でも、言語でも劣等感の強かった自分より、今は「自信の塊」みたい感じられます。性格が明るくなりました。

N・Y： すごい!

N： 私も、そこまで自信はないですけど、とても共感ができます。私の場合は、自分の考えや思いをアウトプットする映画とか、文章と出会えたのは、中高の6年間でした。帰国生だけど、日本語の作文が上手いというのが私の強みで、毎年、作文選集に掲載されたいと頑張っていて、その成功体験が自信につながったと思います。大学のAO入試でも、自分をちゃんと見つめられて書くことができたというのは大きいです。

Y： 私は、そこまで劣等感はなく、深く考えてこなかったかと思えます。私は、人が面白いです。国際学級にいて、いろいろな人がいていいのだということがわかり、さらに一般学級に進学して、どんどん世界が広がって、人と接するのが好きになっていきました。殻が破れたというか、自信がついたと思います。

N： 自分に自信をつけるのもそうだし、自分が関わることで、その人に自信をつけるきっかけを与えたこともあって、多様な人たちが影響し合っているところが成蹊の良さです。

受験生のみなさんへ

Y： 受験は大変ですが、成蹊にはサポートして下さる人がたくさんいます。成蹊に通って自信を持てるようになったので、受験生のみなさんも頑張っておいてほしいです。やってみたいことがないという人もいると思うけれど、ちょっとやってみたいということはあると思います。それを行動に移せる環境が成蹊にはあると思います。

N： 私が受験生で学校を見て回ったときに、文化祭でも勉強でも熱意をもって一生懸命やっていると感じた学校が成蹊でした。勉強も大事ですけど、成蹊は自分の好きなことができる場所だと思いました。気になることをやってみようという行動に至るまでのプロセスを作ってもらえたと思います。

T： たしかに、チャンスを与えてくれる学校だと思います。また、一人で決められる人が多い気がします。誰かに流されるのではなく、自分がやりたいことだからといって決める人が多いです。中学で生徒会に立候補したのもそうでした。生徒会は日本の中高でしか経験できないことだと思ってトライしました。その後、高校では生徒会に立候補はしませんでした。自分が何をやって、何をやらないかを決めるとき、中学で生徒会を経験したことに意味がありました。

Y： 「一度、やってみよう」という挑戦はしやすい学校で、たくさん経験することができました。

T： 学校を選ぶには、自分に合う合わないがあると思います。入学したときと卒業したときで、私は大きく変わりました。今だけを見ないで、自分が何をしたいのか、どうしたいのか未来を考えて選んでほしいと思います。